

言葉以上に表すこと

私は米沢の「落語長屋」という団体に所属しております。日本独特の話芸である落語を、もっと沢山の人々に気軽に触れてもらい、落語文化を広めることを目的としております。メンバーは、自分の好きな古典落語の演目を覚え、様々なところで落語を披露しております。毎回爆笑とはいきませんが、おかげさまで多くの皆さまから喜んでいただいております。私自身落語をやっていることで、仕事でもお客さまから、「だから話が分かりやすいんだね」と言われることもあります。余談ですが、私が属する米沢中央RCの新年会では、落語長屋のメンバーの落語を聴くことが毎年の恒例となっております。

お話は、その「落語長屋」の忘年会の時の出来事です。その当時入会した弟弟子（おとうとでし）は2人で、一人は居酒屋の経営者であり店長、もう一人はその従業員です。忘年会の場所は弟弟子の店でやるほうが喜んでもらえると思い、彼らに頼んでみると、「他の店で呑みたい」とのこと。理由は、自分たちも仕事を忘れて楽しみたいことと、他の店に行くことで勉強にもなるとのこと。希望を聞いてみるとお好み焼き屋がいいということなので、米沢市内のお好み焼き屋で忘年会をすることになりました。

当日の参加者は、先の二人を含め6人。宴会が始まります。それぞれ好きなお好み焼きと酒を注文。お好み焼きは自分たちで焼くスタイル。お好み焼きはひっくり返す瞬間が肝です。不器用な兄弟子（あにでし）たちを見るに見かねて、弟弟子が手際よくひっくり返す。さすが居酒屋で鍛えている。兄弟子たちはその姿を大絶賛。呑んで、食って、しゃべって、しゃべって、呑んで、しゃべって。大いに盛り上がったままあっという間に時間が来て宴席はお開きになりました。

私が会計を済ませている間、兄弟子たちは店の外に出て、まだ盛り上がっている様子。会計を終えて、さきほどのテーブルに戻るとその光景に驚きました。自分たちが使っていた食器が種類ごときれいに積み重ねられ、その上に割り箸が12本。呑んでいたグラスやジョッキも一つにまとまっているのです。弟弟子二人がきれいに片づけておりました。

二人に「偉いなあ」と褒めると、「こうすると店の人の片付けが楽になるだけじゃなく、『ご馳走様』の言葉以上の気持ちも表せるかなと思って」と言うのです。弟弟子に「礼儀」や「感謝」など教えられた瞬間でした。

そんな経営者である弟弟子がやっている「居酒屋道場 壱歩」は、当然今も米沢の中央で繁盛店です。

それにしても、店の外でゲラゲラとバカ話で盛り上がっている兄弟子たちは・
・